

キャリア・パスポートの活用方法

【高校版】

岡山県教育庁高校教育課

1 内容

- 生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。
- 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含むものとする。
- 学年を越えて持ち上ることができるものとする。
- 大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わるることができるものとする。
- 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする。
- ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、その内容及び実施時間数にふさわしいものとする。
- 保護者や地域などの多様な意見も参考にする。

2 活用方法

(1) 基礎資料の蓄積

- 教科のワークシート、学校行事等の記録、学期の振り返りシートなど、生徒の学びの記録を基礎資料として蓄積する。
- 基礎資料の内容については、別紙「キャリア・パスポートの概要【高校版】」の趣旨を踏まえ、各学校において定める。

(2) キャリア・パスポートの作成

- 次の点に留意し、各校において様式を定めること。
 - ・何を意識して学校生活を送ることが大切なのかを、生徒、教職員、保護者等で共通認識をもつため、「生徒へのメッセージ」（〇〇高等学校のみなさんへ）を作成すること。その際、生徒に身につけてほしい力を各校で設定し、明示すること。
 - ・教師と生徒とが対話的に関われるよう、「先生からのメッセージ」や「先生からのメッセージを読んで気づいたこと、考えたこと」の記入欄を設けるなど、工夫を行うこと。
 - ・単なる自己評価票とならないよう留意し、「教科学習」「教科外活動」「学校外の活動」の3つの視点で振り返り、見通しが持てるような内容とすること。

(3) キャリア・パスポートの蓄積と活用

- 各学年で作成したキャリア・パスポートは、次の学年に引き継ぎ、小・中・高等学校の12年間を見通し、系統的・継続的に活用することを通して、生徒の主体的に学びに向かう力を育む資料とする。

3 留意点

(1) キャリア・パスポートを用いた活動

- キャリア教育は学校教育活動全体で取り組むことを前提に、「キャリア・パスポート」やその基礎資料となるものの記録や蓄積が、ホームルーム活動に偏らないように留意すること。
- 学校が作成した「生徒へのメッセージ」は、キャリア教育に係る様々な場面で活用すること。
- 中学校から引き継いだキャリア・パスポートや蓄積した基礎資料を活用して、学習や生活について振り返り、自己評価を行うとともに、今後の学習や生活への意欲につなげる活動を特別活動のホームルーム活動等で行うこと。
- 作成したキャリア・パスポートを基に、教師と生徒や保護者と生徒が対話したり、生徒同士が話し合ったりする活動を取り入れ、生徒が自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結びつけられるようにすること。

(2) キャリア・パスポートの形態

- 学年を持ち上がることから、校内で形態を統一すること。原則として、A4判（両面使用可）、各学年での蓄積は数ページ（5枚程度）とすること。
- 中学校から届くキャリア・パスポートはA4判（両面印刷）小・中学校各学年1枚で、A4用紙14枚を納めることができるクリアポケットファイル（カバー透明）にまとめられている。

(3) キャリア・パスポートの管理

- 個人情報保護及び紛失防止の観点から、キャリア・パスポートの管理は、原則、学校で行うこと。

(4) キャリア・パスポートの校種、学年の引き継ぎ

- 学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行うこと。
- なお、校種間の引き継ぎは、原則、生徒を通じて行うが、指導要録の写しなどと同封して送付することも考えられる。

(5) キャリア・パスポートの表紙等

- 表紙及び裏表紙は、特色に応じて各校で作成すること。その際、「キャリア・パスポート」であることがわかるものとする。
- 中学校から届いた表紙も合わせて保存しておくこと。

(6) キャリア・パスポートの特別支援学校での活用

- 個別の教育支援計画や個別の指導計画等によりキャリア・パスポートの目的に迫ることができる場合、キャリア・パスポートに代えて使用することができる。
- キャリア・パスポートを使用する場合、生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容とすること。

4 実施時期

- 令和2年4月より、すべての県立高校において実施する。